

第13分科会

「松江市学校図書館支援センターの現状と課題」

松江市学校図書館支援センター 発表者 支援スタッフ 石塚晶子



松江市学校図書館支援センターでは、研修の開催、学校訪問等による運営相談やレファレンスなど、50校近い小中学校の日々の図書館活動をバックアップしている。平成21年度に市内公立小中学校全校に学校司書が配置されてからこれまでの事業内容と、今後の課題について話をされた。

市立図書館と連携した資料提供、設備面の改善や図書館活用教育推進へのはたらきかけなどの支援をより充実させていきたいとの抱負に加え、これまで学校司書と共に学校図書館活動の充実に取り組んできた様子が伝わってくる発表であった。

分科会の参加者は、県内外の教育委員会・公共図書館関係者が多数を占めていた。学校図書館支援担当の人数や業務内容など、具体的な体制に関する質問がいくつか寄せられ、学校図書館をなんとかしたいという自治体が各地で増えていることが感じられた。

第13分科会

「島根県立図書館の学校図書館支援」

島根県立図書館 発表者 司書専門員 大野 浩



島根県では、平成21年度からの「子ども読書活動推進計画」の中で、学校図書館振興を強く打ち出し、様々な取り組みを行っている。こうした取り組みがなぜ島根県で始まったのか、どのように進めているのか、ということについて、県立図書館の立場から発表された。

県立図書館では、人的支援として学校司書研修やボランティア研修を、物的環境の整備として約2,000冊の図書を市町村に寄託する「学校図書館活用教育図書整備事業」などを行っている。県立図書館としては、この学校図書館支援に市町村の公共図書館や教育委員会と連携して取り組むことで、県内各地の図書館が学習・情報のインフラとしてより大きな役割を果たしていくことも目指している。最後には、学校図書館と公共図書館・教育委員会がつながりあって、子どもたちが生きる力を身につける基盤づくりをしたいと結ばれた。